

コラム めまいについて

今回はめまいを取り上げます。扱う診療科としては耳鼻咽喉科が最も多いと思われますが、脳神経内科をはじめとした内科や総合診療科への受診も多い疾患です。漢方医学センターを受診する患者さんの症状の中でも最も多いものの一つではないかと思います。必要な検査を行って急を要する疾患を除外することがまずは重要ですが、西洋医学的な治療で十分改善しないめまいの場合、漢方治療が有効なことがあります。漢方薬としては、次の4処方をもっとお勧めしたいと思います。

- 五苓散（ごれいさん）・・・ぐるぐる回る回転性めまいに頻用されます。口渇や尿量減少など水分バランスが悪いとき（水滯）の症状を伴う場合、特に効果が出やすいとされています。
- 苓桂朮甘湯（りょうけいじゅつかんとう）・・・立ちくらみやのぼせ・動悸など、医学的に起立性調節障害を思わせる症状に有効です。漢方医学的には気逆を中心に水滯にも対応する処方です。
- 真武湯（しんぶとう）・・・体がふわふわするような身体浮動感・動揺感や非回転性めまいを中心に用いられます、中高年で冷え症の患者さん向き。実は総合診療科では、こうしたタイプのめまいの患者さんが一番多いです。
- 半夏厚朴湯（はんげこうぼくとう）・・・不安やパニックなど精神的要素が強いめまいに用いることの多い処方です。不安を和らげる作用があり、思いのほか患者さんが落ち着くことが経験されます。

上記の4処方以外にもまだあります。

- 沢瀉湯（たくしゃとう）・・・病院のエキス製剤にありませんが薬局で購入することができます。めまいの頻度が多い場合など、頓服的に試みしてみる価値があります。
- 半夏白朮天麻湯（はんげびやくじゅつてんまとう）・・・胃もたれなどの症状にめまいや頭痛を伴うときに使います。半夏白朮天麻湯は、胃薬の六君子湯によく似た生薬構成を含んでおり、胃腸虚弱のめまい患者さん向けになっています。
- あと、更年期障害に伴う症状としてめまいを訴える患者さんがいますが、更年期障害用の処方がめまいに有効な場合も経験します。桂枝茯苓丸など様々な処方を用います。

高齢者の患者さんでは、八味地黄丸、真武湯などの補腎薬を用いることもあります。補腎薬というのは、加齢などにより衰えてくる細胞の新陳代謝を活性化する、言ってみればアンチエイジング薬の働きをする漢方薬です。高齢の患者さんで難聴やめまいが改善しない難治例には、補腎薬を長期的に用いるとよいでしょう。腰痛や冷え症など、この年代にありがちなめまい以外の症状も併せて治療できます。（1052文字）